

タカタを買収したのは何者なのか

: 日本企業が怠ったことの代償

杉田俊明

(甲南大学経営学部 教授)

2017.08.07

2017年6月、タカタがアメリカのKSSに買収された。KSSのCEOはJason Luo, 元々中国生まれ、中国育ちの羅冠宏氏だ。

ところで、このことは驚きに値しないが、当の業界関係者たちも驚くのはその背後である。

KSSを1年前に買収したのは中国の均勝グループなので、タカタは実質、中国企業に買収された。意外に思う人が多く、均勝って、だれ? というのがまず疑問となった。ここでようやく、これまで慢心してきた日本の関係者がある事実気付く。

歴史は14年ほどしかない均勝だが、創業者の王劍峰氏は実はその前の5年間、タカタと同業の、TRWのある中国現地法人で社長を務めていた人物だ。

それに、このTRW勤務時の部下で販売担当マネージャーだった者が、いまでも均勝グループの中核で上場企業でもある均勝電子の取締役として王氏の経営を支えている。

TRW中国首席代表だった者も昨年からは均勝電子の社外取締役を務め、上海GM購買調達担当総責任者を務めた者は取締役兼副総裁として、元Bosch中国統括会社勤務者も取締役として加わっている。

取締役ではないが副総裁として招聘されているのは、元上海Learマネージメント東区総責任者、Lear上海自動車システム管理の社長を歴任した者である。

多くの人が知っているように、TRWはアメリカに本社がある世界有数の自動車部品関連企業で、最大手の一つであるドイツのZFに買収されてからはZF TRWとして業界最強グループの一つを構成している。

そして、Boschは本社がドイツ、Learは本社がアメリカで、どちらも世界的な自動車部品関連企業で、GMはアメリカの代表的な自動車企業だということは周知である。

ドイツのPrehグループの総裁兼CEOを務めるドイツ人も均勝電子の取締役。均勝に2011年に買収されたPrehはいまや均勝の欧州地域本格的な役割を果たす。

ここでもう一つ、特筆すべきことがある。

均勝電子目下の経営陣14名はほぼ全員、社会人になってから高等教育の研修を受けてきた者である。うち、エクゼクティブが対象のEMBAが5、MBAが3、計8名も経営学修士または博士号を有し、他に法務と会計の専門職もいる。

ちなみに、前掲羅氏もKSSでの勤務をこなしながら、アメリカの大学の週末コースでMBAを習得した者である。

